

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	THz波高分解吸収スペクトラム測定による分子・格子の固有振動と分子構造の同定	研究代表者名	富永 圭介
-------	--	--------	-------

該当箇所()に 等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア() 高い
- イ() やや高い
- ウ() やや低い
- エ() 低い

意見：
テラヘルツ光学技術は近年大きく発達してきたが、化学分野への応用は緒についたばかりであり、研究推進の必要性は高い。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア() 予定以上に進展している
- イ() 概ね予定どおり進展している
- ウ() やや遅れている
- エ() 遅れている

意見：
高分解能のテラヘルツ波光源開発がほぼ完成し、分光測定も着実に進んでいる。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア() 研究経費
- イ() 設 備
- ウ() 組 織
- エ() そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア() 期待以上の成果をあげている
- イ() 概ね期待された成果をあげている
- ウ() 期待された成果をあげつつある
- エ() 期待された成果はあがっていない

意見：
分子分光に必要な周波数範囲と分解能を有する装置開発は達成されたといえる。また分子性結晶の測定も開始され、その解析も検討されつつある。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア () 有機的に連携が保たれている
- イ () あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ () その他

意見：
全体的に装置開発と測定解析に関しては連携が保たれている。ただし界面ラマン分光についての連携はもう少しの注力を期待する。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア () 効率的・効果的に使用されている
- イ () あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ () その他

意見：

6 研究課題の総合的な評価

該当欄	評価結果
A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

これまでいくつかの難点のゆえに発展が遅かったテラヘルツ領域の分光測定に対して、高分解能光源の装置開発を進め、精度の良いデータがえられるようになってきた。スペクトルの解釈についても、計算モデルとの対比手法などにより緒についたところである。今後いろいろの試料について、他の構造解析手法との対比もとりいれつつ、テラヘルツ分光特性の更なる明確化を期待する。